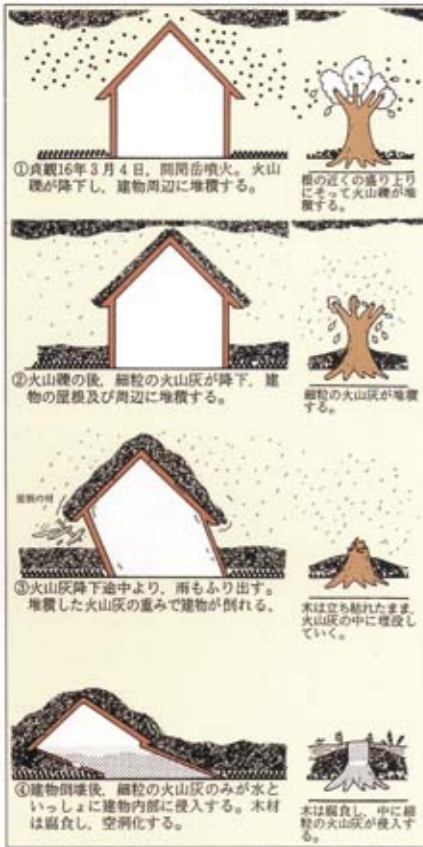


火山灰に埋もれた村



軽石や火山灰で建物が倒れていく様子

文献と発掘調査の成果が一致！橋牟礼川遺跡（指宿市）

巨大噴火が起きたとき、人々の生活にどんな影響が出たのでしょうか。指宿市の橋牟礼川遺跡では、「紫コラ」と呼ばれる開聞岳の火山灰層を取り除いたところ、掘立柱建物跡や貝塚など平安時代の集落跡が見つかりました。発掘調査の結果、平安時代の歴史書である「日本三代実録」に記された貞観16年3月4日（西暦874年3月25日、平安時代）の開聞岳噴火の記録と道跡や河川などの様子が一致することがわかりました。

文献の記録と発掘調査の成果から、建物が軽石や火山灰に埋もれていく様子や人々が家を捨てて逃げた様子が明らかになりました。

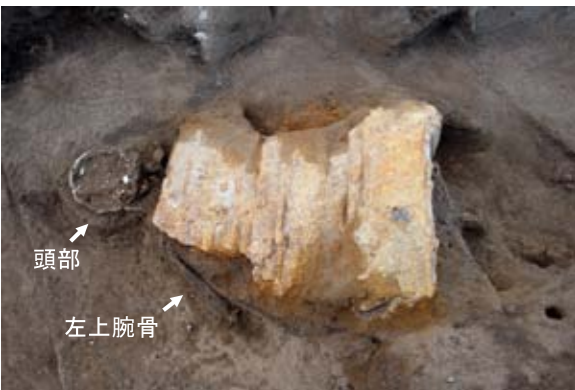


紫コラに埋もれた須恵器長頸壺



火山灰の重みで倒壊した建物跡（白線方形の部分）

国内初！甲を着た人骨発見！



写真上 甲を着た古墳人の出土状況
写真下 古墳人拡大写真（写真上Aの方向から）

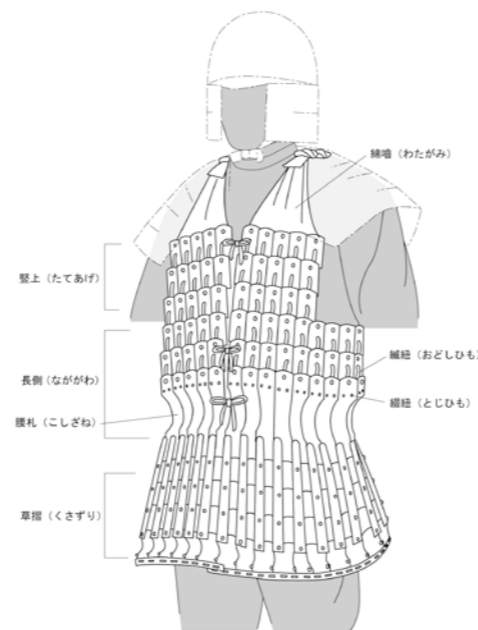
金井東裏遺跡（群馬県渋川市）

昨年12月、群馬県渋川市で甲を身につけた古墳時代の人が出土しました。古墳時代の人（古墳人）が甲を装着した状態で出土した例は全国で初めてであり、また火山灰の中から人骨が出土した例も全国初の事例として話題になりました。

発見された甲は、長さ約5cm、幅約2cm、厚さ約1mmの小さな鉄板を右図のように重ね合わせた「小札甲」と考えられています。

渋川市では、このほかにも黒井峯遺跡や中筋遺跡などで、古墳時代の村の様子や暮らしぶりがよくわかる遺構や遺物が数多く見つかっています。

榛名山は、6世紀に2回、大きな噴火を起こしました。ごく短い時間のうちに大量の軽石によって村全体が埋もれてしまったため、真空パックされたようにはっきりと残されていたのです。



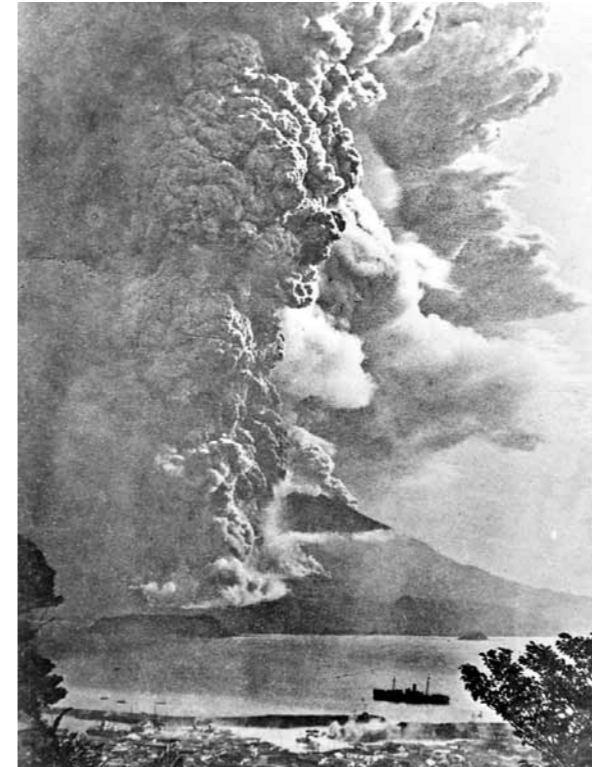
上野原縄文の森第36回企画展 ～桜島大正噴火100周年記念～

巨大噴火と共に 生きた人々

特展データファイル 36
2013.4.19.～2013.9.1.

お問い合わせ
鹿児島県上野原縄文の森
〒899-4318
鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森1-1
TEL 0995-48-5701 FAX 0995-48-5704
URL <http://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail uenohara@jomon-no-mori.jp

桜島大正噴火から100年



噴火直後の様子（大正3年1月12日午前8時5分、県立博物館蔵）

大正3年1月12日午前10時過ぎに始まった大正の大噴火では、大量の火山灰や軽石、溶岩で、いくつもの村が埋もれてしまいました。特に、東側（垂水市側）の鍋山付近から流れ出した溶岩は、垂水市との間にあった瀬戸海峡を飲み込み、大隅半島と陸続きになりました。



桜島大正噴火当時の絵はがき 大武進コレクション（桜島ミュージアム蔵）

およそ26,000年前に誕生した桜島は、これまでに大正噴火並みの大噴火を17回起こしています。大正、安永（江戸時代）、文明（室町時代）の大噴火は、県立博物館や県立図書館、桜島ビジターセンターなどに、写真や絵図、文献などが残されており、桜島の大噴火の特徴や被災状況を詳しく知ることができます。さらに古い時代の噴火に

ついては、大学の学術調査や遺跡の発掘調査などで噴火の規模や時期などがわかってきています。



桜島大正噴火の火山灰を含む地層剥ぎ取り資料（下原遺跡、志布志市）



桜島爆発絵図（県立図書館蔵）

展示資料データ	遺跡数	展示資料数	展示パネル数
	23	159（一括展示含む）	109

火山灰層が示す巨大噴火の痕跡

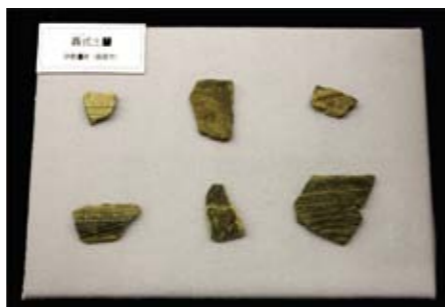


火山灰層剥ぎ取り資料（ホケノ頭遺跡、錦江町）

今から約7,300年前（縄文時代早期）^{きつまいおうじまおき}、薩摩硫黄島沖の海底火山、鬼界カルデラで大噴火が起こりました。過去1万年前の間では地球最大規模といわれる大噴火で、このときの火砕流は、海を越えて100kmも離れた現在の南さつま市や鹿屋市まで達しました。上空高く吹き上げられた火山灰は、風に流されて関東地方や朝鮮半島でも確認されており、アカホヤ火山灰と呼ばれています。

この大噴火から900年後（約6,400年前、縄文時代前期）、薩摩半島南部で大噴火が起こりました。このとき噴出した軽石（池田軽石）や火山灰は、海を隔てた大隅半島南部でも1m堆積するほどの大きな噴火でした。その後、火口に水がたまり、現在の池田湖となっています。

大隅半島の南部では、アカホヤ火山灰と池田軽石との間の層で人々の生活が確認されたのは鹿屋市伊敷遺跡しかありません。鬼界カルデラ大噴火の影響で、数百年という長い間、人が住める環境ではなかったと考えられます。



轟式土器（伊敷遺跡、鹿屋市）

年代の指標となる火山灰層

鬼界カルデラや池田湖の大噴火から身を守ることはおそらく難しかったでしょうし、仮に生き延びても、軽石や火山灰に覆われた土地で生活を続けることはできなかったでしょう。巨大噴火は、その時代に生きた人々にとっては大変なことでした。しかし、火山灰などに覆われて地中に残された当時の人々の痕跡は、発掘調査でとても重要な情報を与えてくれます。

ここ上野原遺跡の竪穴住居群（国指定史跡）や双子壺（重要文化財）も、それらを覆っていた桜島の軽石層（P13やP11）から年代がわかりました。同じように、踊場遺跡（曾於市）の畑跡や七ツ谷遺跡の尖底土器も、火山灰から使用された年代がわかりました。特に、アカホヤ火山灰は国内の広い範囲で確認されていますから、例えば四国や関西地方、関東地方などと鹿児島・宮崎とこの火山灰層の上下で出土する遺物を比較することもできます。



埋土に桜島P13を含む竪穴住居跡（上野原遺跡、霧島市）



文明ボラ[※]に覆われた畑跡（踊場遺跡、曾於市）



底部にアカホヤ火山灰が付着した尖底土器（七ツ谷遺跡、湧水町）

鹿児島県の主な活火山・カルデラ

活動史年表（軽石・火山灰名の背景色は、右図の火山・カルデラ名の背景に対応しています。）

噴出時期	軽石・火山灰名
1914年	P ^{※1} 1 (大正)
1779~1782年	P2 (安永)
1471~1476年	P3 (文明)
874年	紫コラ ^{※2}
764~766年	P4
7世紀末	青ゴラ
約1,900年前	暗紫ゴラ
縄文晩期	灰ゴラ
縄文後期	黄ゴラ
約4,600年前	御池軽石
約3,800~5,600年前	P5 P6 P7
約5,500年前	池田軽石
約6,500年前	P8
約7,300年前	アカホヤ
約7,500年前	P9
約7,700年前	P10
約8,000年前	P11
約8,100年前	米丸軽石
約9,000年前	P12
約10,600年前	P13
約12,800年前	P14 (薩摩) ^{※3}
約24,000~26,000年前	P15 P16 P17
約29,000年前	AT ^{※4} (シラス)
約30,000年前	種Ⅳ
約38,000年前	種Ⅲ



火山灰の年代表示について

以前は、放射性炭素を分析して得られた値をそのまま用いた「14C年代」で表示していました。

しかし、最近では年輪年代法など他の研究成果も含めて算出した「暦年較正年代」が使われるようになりました。この企画展では、すべて「暦年較正年代」で表示しています。

主な火山灰の「14C年代」と「暦年較正年代」

火山灰名	14C年代	暦年較正年代	備考
アカホヤ	6,500年前	7,300年前	鬼界カルデラ
P13	9,500年前	10,600年前	桜島、上野原遺跡の竪穴住居跡の時代
P14	11,500年前	12,800年前	桜島、通称「薩摩火山灰」
AT	24,500年前	29,000年前	始良カルデラ、通称「シラス」

※1 P1~P17の「P」は桜島の噴出物（軽石や火山灰）を表しています。

※2 「コラ」や「ゴラ」は、開聞岳の噴出物（軽石や火山灰）を表しています。この火山灰層がカメのこうらのように硬いことから名付けられました。

※3 （ ）内は、通称名です。

※4 ATは、「始良(AIRA)・丹沢(TANZAWA)火山灰」の略称です。神奈川県丹沢地方で見られる火山灰が始良カルデラの噴出物であることがわかり、このように呼ばれるようになりました。

※ ボラは、火山の噴火で噴出した軽石のことで、文明ボラ、御池ボラなどと呼ばれます。「役に立たない」という意味の方言です。